

各 位

会 社 名 株 式 会 社 レ ー サ ム  
 代 表 者 名 代表取締役社長 田 中 剛  
 JASDAQ コード 8890  
 問 合 せ 先 取締役管理本部長 松 倉 信 行  
 電 話 03 (5157) 8881

平成 24 年 3 月期 通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

本日開催の取締役会において、平成 23 年 10 月 14 日に公表した平成 24 年 3 月期（平成 23 年 9 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）の通期連結業績予想を、下記のとおり修正いたしましたのでお知らせいたします。

なお、当予想値は監査法人による監査前の速報値である旨、申し添えます。

記

1. 平成 24 年 3 月期 通期連結業績予想の修正

平成 24 年 3 月期（平成 23 年 9 月 1 日～平成 24 年 3 月 31 日）の業績予想数値の修正

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前 回 予 想 ( A )	11,800	820	780	700	1,519.05
今 回 修 正 ( B )	8,200	1,100	1,050	850	1,844.56
増 減 額 ( B - A )	△ 3,600	280	270	150	—
増減率 = $\frac{B-A}{A} \times 100$ (%)	△ 30.5	34.1	34.6	21.4	—

ご参考：前期（平成 22 年 9 月 1 日～平成 23 年 8 月 31 日）の実績

平成 23 年 8 月期実績	9,075	298	△ 516	△ 222	△ 482.86
----------------	-------	-----	-------	-------	----------

上記の通期連結業績予想の修正に係わる、セグメント毎の業績予想は、次のとおり修正となります。

前回予想の各セグメントの業績（平成23年9月1日～平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	資産運用 事業	グローバル ティマネ ジメント事業	サービス 事業	その他の 事業	合計	調整額	損益計算書 計上額
売上高	10,030	690	740	340	11,800	(-)	11,800
セグメント利益	770	150	130	0	1,050	(230)	820

今回修正の各セグメントの業績（平成23年9月1日～平成24年3月31日）

（単位：百万円）

	資産運用 事業	グローバル ティマネ ジメント事業	サービス 事業	その他の 事業	合計	調整額	損益計算書 計上額
売上高	6,100	780	960	360	8,200	(-)	8,200
セグメント利益	940	230	130	10	1,310	(210)	1,100

## 2. 平成24年3月期 通期連結業績予想の修正理由

連結売上高は当初の予想値を下回る見込みですが、営業利益、経常利益、当期純利益については当初の予想値を達成し、上回る見込みです。

各セグメントの業績予想値に関するコメントは、以下のとおりです。

### <資産運用事業>

資産運用事業において、当社の商品とサービスに対するお客様からの要望は、従前に比べて高度化してきております。具体的には、短期的な利回りの確保よりも長期的な利回りが確保できる事への関心が高まっております。また、高齢化社会の進展等により不動産の置かれた環境が変化する中で、将来的に競争力が保てる投資とはどんな投資であるべきかを、当社が提案することを求められております。こうした要望にお応えするには、当社が手間暇をかけて高付加価値型の不動産を着実に生み出していくことが大切であり、当期においてはそのために不動産の仕入れと販売についてより慎重に対応した結果、資産運用事業の売上高は当初の予想値を下回る見込みです。この高付加価値を生み出す体制は、徐々に進展しており成果を挙げてきておりますが、さらにスピードアップを目指してまいります。その為の一つの施策として、高度化されている商品の個別の事例を紹介することで、当社の取り組みをお客様に理解していただく為、この度当社のホームページを刷新し、積極的なPR活動にも取り組んでおります。

なお当セグメントの売上高が予想値より下回ったのに比べて利益額が低下していない理由は、当社の保有不動産以外の資産に関して、当社の資産運用事業のサービスを望まれるお客様に、フィー・ベースでサービスを提供した結果、フィー売上高がそのままセグメント利益額となる案件があったことも寄与しております。

以上の様に資産運用事業のセグメント売上高については、当初の予想値には届かなかったものの、セグメント利益については当初の予想値に対して増額予想修正となります。

<プロパティマネジメント事業>

当社が所有する販売用不動産からの賃料収入が、当初の予想値を上回った結果、プロパティマネジメント事業における売上高、セグメント利益ともに、当初の予想値を上回る見込みです。

<サービシング事業>

サービシング事業においては、現在保有する債権を大切に扱い、担保不動産に関しても潜在的な価値にも留意しながら回収をしており、売上高は当初予想値を上回る見込みであり、セグメント利益においても、予想値どおりの額となる見込みです。

<その他の事業>

レーサム・ゴルフ&スパリゾートにおける事業は、当初の予想比で、増収・増益となる見込です。これは、今まで進めてきたコース・コンディションの改善の成果が出てきていること、お客様への継続的なサービスの向上努力によるものです。

上記の結果、連結売上高は、当初予想値を下回りますが、連結営業利益、連結経常利益、連結当期純利益については当初予想値に対してそれぞれ増額修正となります。

以上

上記の業績予想等に関する記述は、当社グループにおいて本資料発表日現在で入手可能な情報に基づいて判断したものであります。実際の業績については、今後様々な要因の変化によって、上記の業績予想と異なる結果となる可能性があることをご承知おきください。